

# かごしま審判講習会 応用講習用資料①

実際に試合をするのはプレーヤーだが、審判にはその試合を引き締まったものにする役割がある。また、ルールを熟知することで自分を守ることができる。「テニス選手として」のレベルアップのため、審判力を向上させよう！

自分のジャッジには自信を持って堂々と審判をすること。小さい声でコールしたり、ジャッジを迷ったりするとプレーヤーに不信感を与え、試合の雰囲気壊しかねない。常に毅然とした態度でいる必要がある。

## 審判の基本技術

- 1 セカンドサービスのフォルトは「**フォルト**」とコールする。（「ダブルフォルト」は正式なコールではない。）
- 2 サービスやラリーでネットした場合、「ネット」のコールはしない。
- 3 フットフォルトは、サーバーがボールを打った瞬間に「フォルト」とコールする。「**フォルト。フットフォルト。**」
- 4 周囲がわかりづらい2バウンドは「**ノットアップ**」とコールする。
- 5 「イン」のコールは絶対にしない。ライン際のインは、インのハンドシグナルをする。
- 6 ラリー中のコールはプレーを止める時のみ。  
従って「**フォルト**」「**アウト**」「**ウエイトプリーズ**」「**レット**」「**ノットアップ**」のみであり、これらのコールは「大声で」直ちに行う。これは副審・線審の「**フォルト**」「**アウト**」も同様である。
- 7 カウントコールはポイントが決まったらすぐにしてよい。（例）「**アウト。 40-15!**」  
ただし、ポイントが決まった直後に歓声大きい場合は、歓声がおさまるのを待ってからカウントコールをするような配慮をしたい。

## 試合で起こり得る状況とその対応（基本編）

- 8 プレーヤー、ベンチコーチ、監督がジャッジに対して、抗議や訴えをしてきたとき。  
→ 審判は応じる必要はない。毅然とした態度（堂々とした態度）で、再度コールする。「インです。（アウトです）」
- 9 プレーヤー、ベンチコーチ、監督がボールマークのチェックを要求してきたとき。  
→ （ハードコート、オムニコートでは）審判はボールマークのチェックを行ってはいけない。
- 10 フットフォルトは主審のみコールできる。  
→ 主審：（打った瞬間に）「**フォルト。フットフォルト。**」  
モーションに入ってからヒットまでの一連の動作の中で一度でもラインを踏んだ・越した場合はフットフォルトとなる。

## 11 隣からボールが入ってきたとき。

### (ケース1 インプレイ中にボールが入ってきた場合)

→ コート内やコート後方にボールが入ってきたら、ただちに「レット」とコールをかけて試合を止め、ファーストサービスからやり直す。「**レット・リプレイ・ザ・ポイント**」

### (ケース2 ファーストサービスをフォルトし、セカンドサービスを打つときにボールが入ってきた場合)

→ サーバーがセカンドサービスを打つモーションに入ってから「レット」をコールしたときは、ファーストサービスからのやりなおしとなる。「**レット・ファーストサービス**」

→ モーションに入る前に「レット」をコールしたときは、そのままセカンドサービスからとなる。  
**「レット・セカンドサービス」**

注意1: 副審、線審、プレーヤー、ベンチコーチ、監督はプレイを止めることはできない。  
主審だけが「レット」をかけられる。

注意2: 「レット」がコールされたあとに、次の状況が起こった場合は、レットは取り消されそのポイントは成立となる。

- ①「レット」がコールされる前に打たれたボールが、コートに入らなかった場合は、「アウト」になる。
- ②「レット」がコールされる前に打たれたボールが、明らかなウィナーまたはエースとなる場合は、打ったプレーヤーの得点となる。

## 12 インプレイ中に、持ち物(帽子、ボール、振動止め、ゼッケン等身につけているもの)を落とした場合。

→ 1回目ならば「**レット・リプレイ・ザ・ポイント**」とコールし、ポイントをやり直す。その際、主審は「**次、持ち物を落としたら、落す度に失点になります**」とプレーヤーに伝える。(必ず伝えること。伝えないでいると、あとでトラブルになってしまう。)

→ 2回目以降持ち物を落としたら、故意による妨害と判断し失点となる。

## 13 副審、線審のジャッジを主審が「オーバールール」する場面

⇒ 副審、線審のコールが明らかにミスジャッジだと主審が判断した場合、直ちに主審はオーバールールをしなければならない。

→ 副審、線審の「アウト」「フォルト」のコールを誤りと判断したときは、直ちに「コレクション(Correction)」とコールし訂正する。「**コレクション。(ボール・ワズ・) グッド。リプレイ・ザ・ポイント**」  
ただし、そのボールが明らかにウィナーまたはエースの場合は、打ったプレーヤーのポイントとなる。

→ 副審、線審がグッド(イン)と判断したが、それが誤りと判断するときは、直ちに「アウト」「フォルト」とコールする。

→ プレーヤーで隠れたりして、副審、線審がジャッジできなかった場合は、主審がオーバールールをする。

→ コールの訂正は、プレーヤー等の抗議や訴えによって行うことはできない。そのため、ジャッジが誤りだと判断した場合は直ちにオーバールール・コレクションを行わなければならない。抗議や訴えの後は不可。

注意1: 副審、線審が「アウト(フォルト)」とコールし、主審にはそれがグッドのように見えたとしても、明らかな誤審と判断できない場合は、オーバールールをしてはならない。

注意2: ゲーム中、明らかなジャッジミスがあったが直ちにオーバールールせず、ポイントが成立してしまった場合、その後オーバールールをすることはできない。(ゆえに、ミスジャッジへのオーバールールは即座に行う。)